

■地域の「人」・「もの」・「こと」 とのふれ合いを大切に

桂川幼稚園園長 城石俊弘

緊急事態宣言が出されている中で2学期スタートとなりましたが、子どもたちは、園の内外で元気いっぱい活動しています。2学期は、運動会、秋の遠足、生活発表会など、多くの園行事があります。感染予防対策を十分に取しながらできる限り実施したいと考えています。

本園では、地域の「人」「もの」「こと」の活用を入れていきます。子ども達が育てた野菜を「いいバイ桂川」で販売したり、夏季保育ではゆのうら体験の杜やキャンプ場を、生活発表会では住民センター大ホールを活用したりしています。また、王塚装飾古墳館の見学や町立図書館でたくさんさんの絵本に触れる活動も続けています。さらに、英語活動や手話、キッズヨガの指導、園の畑の整備など、多くの地域の方々にお世話になっていきます。小学校生活のスムーズなスタートのために、行っている、サツマイモの栽培や給食体験、生活科の授業を通した小学生との交流も子どもたちにとって楽しみな時間となっています。このように、桂川町の



▲畑をきれいにしてくれました



▲王塚装飾古墳館に行ったよ！

たくさんの人や施設、自然と触れ合うことが、子どもたちの遊びや体験の幅の広がり、質の高まりにつながり、成長の大きな支えになっていると考えています。今後も町立の幼稚園として地域に密着した教育活動を進めていきます。地域の皆様のご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

■令和3年度「全国学力・学習状況調査」における桂川町の児童・生徒の状況(その1)

桂川町教育委員会 学校教育課

五月に、小学校6年生と中学校3年生を対象に実施された令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果の概略を報告します。昨年度は新型コロナウイルス感染拡大で中止となり、2年ぶりの実施となりました。

本年度は、小学校6年生と中学校3年生の国語・算数(数学)の二教科で実施されました。小学校6年生・中学校3年生の平均正答率は、本年度も、国語・算数(数学)ともに、全国及び福岡県の平均正答率に届かず、一昨年度と比べると小学校6年生は、少し差が縮まり、中学校3年生は差が広がりました。

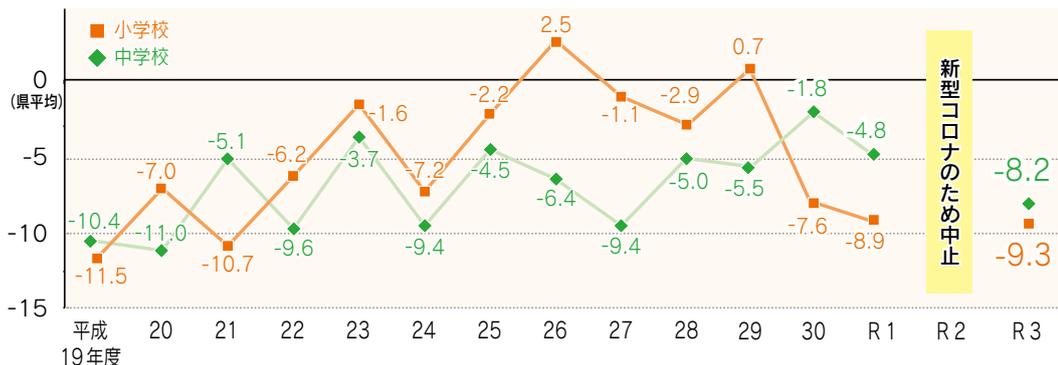
また、調査が始まった平成19年度からの推移のグラフ(平均正答率の県平均との差)をみますと、年度によって上がり下がりがありますが、ここ三〜四年は低下傾向となっています。

各学校では、学力を伸ばすために、さまざまな教育実践に取り組んできましたが、残念ながら結果に結びついていないとも言えます。

学校教育課としても、この結果を深刻に受けとめ、これまでの取組を猛省しています。今後は、桂川町として「学力向上」を進め

ていくために、特に、「学力の基盤づくり(朝の活動の見直し)」「授業づくり(書く活動の充実)」「家庭との連携(家庭学習の充実)」に關して、各学校への指導・支援を強化し、学校とともに取り組んでまいります。

【全国学力・学習状況調査の推移】
(小学校6年生・中学校3年生平均正答率 桂川町と県平均の比較)



(出典「全国学力・学習状況調査」)